

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：37503

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2017～2020

課題番号：16KK0067

研究課題名（和文）セクシュアリティと国民化 マレーシアにおける女性器切除からみる言説の政治（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Sexuality and Nationalization: Politics of the Discourse from the Viewpoint of Female Genital Mutilation in Malaysia(Fostering Joint International Research)

研究代表者

井口 由布 (Iguchi, Yufu)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授

研究者番号：80412815

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,200,000円

渡航期間： 11ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は都市と農村における「女性器切除FGM」実践を検証することで、マレーシアにおける主体形成とセクシュアリティの関係を解き明かすことを目的としていた。RCSI&UCD Malaysia Campus 公衆衛生学教授であるアブドゥル・ラシド氏の協力をえて、「FGM」実践と人々の意思に関する量と質の調査を敢行した。これは、マレーシア人医師を対象とする「FGM」の医療化に関する世界初の包括的な調査である。マレーシアにおける「FGM」は、これまで生活に埋め込まれた無意識的な実践であった。しかしながら、調査の結果、医療化に伴いグローバル言説や国民国家的言説の中に再位置づけされてきているといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的な意義は、世界的に著名な医学雑誌Plos Medicineにおいて共著論文“Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: A Mixed Methods Study”を発表することで、マレーシアにおけるFGM研究の蓄積に貢献し、アフリカ中心のFGM研究に一石を投じることができたことである。社会的な意義としては、ワークショップ等を通して多分野の研究者と協働することができたこと、また研究者ではない臨床を行う国内外の医師や看護師に対して女性器切除の問題を伝えることができたことである。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify the relations between subject formation and sexuality in Malaysia by examining the practice of 'female genital mutilation (FGM)' in Malaysia's urban and rural areas. The author conducted quantitative and qualitative research on 'FGM' with Professor Abdul Rashid (Public Health, RCSI & UCD Malaysia Campus, former Penang Medical College). It was the first comprehensive research on the medicalization of 'FGM' targeted at medical practitioners in Malaysia. The research revealed that Malaysian 'FGM', which had been an unconscious practice embedded in local daily lives, was re-situated in the state and global discourses through its medicalization.

研究分野：ジェンダー研究

キーワード：ジェンダー 女性器切除 マレーシア セクシュアリティ 女性の身体 医療化 イスラム 国民

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

マレーシアにおける「女性器切除 (Female Genital Mutilation, FGM)」については、マレーシア女性の 98% 以上が経験しているという報告がある一方で、研究代表者が研究を開始した当初は 2 本の医学的な学術論文があるだけであった。研究者は、2012 年から 2014 年度科学研究費 (挑戦的萌芽)「マレーシアにおける女性の表象——女性器切除をめぐる言説の政治——」において、マレーシア内外における「FGM」に関する政府や国際機関の資料や先行研究を収集した。その結果、マレーシアにおける「FGM」は、広く実践されているにも関わらず政府や学者による調査がないこと、アフリカ地域の実践とは異なりイスラムと深く結びついていること、クリトリスの切除はしておらず包皮に切り込みをいれるタイプであること (WHO のカテゴリーでいうところのタイプ 4)、生後 5 ヶ月から 1 歳半ぐらいまでに多くが行ってしまうこと、理由として女性の性欲のコントロールだけでなく女性の性的快感の増進を上げる人もいることなどがわかってきた。研究が非常に少ないため、現地における聞き取り調査が欠かせないことが認識された。そこで、2015 年度に採択された研究課題「セクシュアリティと国民化——マレーシアにおける女性器切除からみる言説の政治」(平成 27 年度 基盤研究 (C)) では、マレーシアにおける「FGM」についての現状を調査することにより、「FGM」をセクシュアリティと身体への支配に関する現代的な問題としてとらえ直し、マレーシアにおける国民的な主体形成の中に位置づけることをめざした。この課題の目的は以下の 3 つであった。1) マレーシアにおける「FGM」の現状を把握する。2) 「FGM」を性器の加工という視点からとらえなおすため身体に関する議論を検討する。3) セクシュアリティの支配と国民主体の形成との関連から「FGM」を位置づける。本国際共同研究加速基金の基課題であるこの研究課題は、マレーシアにおける「FGM」についての数少ない学術論文の執筆者の一人である RCSI & UCD Malaysia Campus (当時の名称は Penang Medical College) の公衆衛生学教授アブドゥル・ラシド氏とともに農村における「FGM」についての実践と人々の意識について、量と質の双方の調査を行なった。

本国際共同研究加速基金での研究は、基課題を、国際共同研究の強化によってよりいっそう加速させるという性格をもっていた。

なお、本報告書では「FGM」をカギ括弧の中にいれている。これは指示対象としてなんらかの客観的な実体があって、それに対して名称がつけられているという立場をとらないからである。すなわち、名称がつけられるということによって、事後的に指示対象が構成されると考えている。

2. 研究の目的

本研究課題の第一の目的は、社会科学と医学の知見を融合した観点から、マレーシアの都市と村落における「FGM」の現状と人々の意識を探ることで、マレーシアにおける国民的な主体形成とセクシュアリティの関係を明らかにすることである。これは基課題の目的のうち 1) マレーシアにおける「FGM」の現状把握に焦点を当て深化させるものである。とりわけ、マレーシアにおいても進展している「FGM」の医療化の過程を探ることをめざした。医学博士である共同研究者ラシド氏と社会科学分野の研究代表者による共同研究によってはじめて可能となるものであった。

第二の目的は、医学、人類学、社会学などさまざまな視点から、マレーシア以外の地域の「FGM」を研究する研究者との国際的なネットワークを形成することで、アフリカ中心の「FGM」を問いなおしていくことである。これは基課題の 2) と 3) を深めていくことにあたる。国際学会や国際シンポジウム、ワークショップ等の企画を通して、さまざまな分野の研究者たちとのネットワークを形成することをめざす。

3. 研究の方法

研究目的の第一であるマレーシアにおける「FGM」の医療化の調査について詳述する。本調査は、マレーシア全土の医師を対象にした量的調査と、「FGM」の施術を行なったことがあるいは現在行っている医師へのインタビュー調査の大きく二つの柱からなる。本調査に関しては、研究者の所属大学の研究倫理委員会において調査実施の承認を受けた。本調査は、2018 年から 2019 年において実施された。

量的調査から説明する。調査票はデモグラフィ、知識、実践、将来についての設問からなる。代表者は、二つの主要な医学学会 (学会 A と学会 B) に協力をあおぎ、それぞれの年次大会に出席しムスリムの医師にサーベイへの協力を依頼した。「FGM」の施術をするのは基本的にムスリムの医師であることが先行研究からわかっていたからである。大会に参加していない医師に対しては、郵送で質問票を送付した。学会 A の 510 名の会員のうち、333 人がムスリム女性医師であり、64 人がムスリム男性医師であった。学会 B はムスリム医師のみが所属している。女性医師が 3088 人で、1323 人が男性医師であった。合計 894 通の質問票を配布し、366 の完全な回答をえた。

質的調査では、スノウボールサンプリング法によってインタビュー対象者を見つけた。これは「FGM」の施術が、国際的には認められていないことから、対象者を探すことが容易ではなかったことによる。結果 24 名のムスリム医師にインタビューをすることができた。半構造化面接の手法によって英語をもちいて聞き取りを行なった。質問事項は、基本情報、実践、知識、

将来の4つであった。24名のムスリム医師のうち23名は女性、1名が男性であった。

4. 研究成果

本研究の成果発表は医学と社会科学の二方向から行われた。第一の公衆衛生学的な視点からの成果は、国際的に著名な医学雑誌である *PLOS Medicine* において2020年10月に発表されている。Abdul Rashid, Yufu Iguchi and Siti Nur Afiqah, “Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: A Mixed Methods Study” *PLOS Medicine*, October 27, 2020. Pp. 1-22. <https://doi.org/10.1371/journal.pmed.1003303>

本論文は、マレーシアにおける「FGM」の医療化を論じた世界で初めての学術論文である。量的調査と質的調査の双方を同時に論じるミックス・メソッドの手法をとっている。量的調査はSPSSバージョン18 (IBM, Armonk, NY) で分析し、カイ二乗検定とロジスティック回帰分析をおこなった。質的なデータはテープおこしをおこなったあと、NVivoバージョン12においてコード化の解析を行なった。

量的調査の回答者の多くは女性であり、マレーシアの大学の医学部の学位を保持し、家庭医療を専門としていた。年齢の中央値は42歳である。「FGM」の施術をしている、ないしはしたことのある医師は20.5%であった。おもな理由は、「FGMが宗教的な義務である」とかれらが考えているからであった。

質的調査でも同様で、宗教的信仰心が、「FGM」実践を支持し、将来も継続すべきだという考えにつながっていることがわかった。宗教に次いで、「文化」、医師が行うことによる「危害の軽減」が続いた。聞き取りの結果、多くのムスリム医師がWHOのカテゴリーでいうところのタイプ4の切り込みをいれるなどの非切除の術式をとっていることが明らかになった。しかしながら、クリトリスの一部分を切除するタイプ1を施術している医師も認められた。この点は重要で、一般に考えられるのとは反対に、医療化が決して「FGM」施術の危険性を軽減するとはかぎらないということが明確になった。

第二の社会科学的な観点からの成果をみてみよう。研究代表者は2020年11月に国際学会において以下のような口頭発表を行なった。Yufu Iguchi, “The Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: Its Meaning toward the Medical Discourse on the Female Body” in the panel of Reading Against the Grain of a Global Discourse on Female Genital Mutilation/Cutting organized by Yufu Iguchi (18th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Nov. 17, 2020).

本報告では、すでに出版されている上記の公衆医学的な分析を下敷きにしつつ、質的な調査にとくに焦点をあてた。医師たちはなぜ医療目的ではないはずの「FGM」を行うのか。宗教的であると医師自らがみているような実践を、なぜ医師が行うのか。本報告は、医学や医療実践を人類の歴史における進歩や文明化としてではなく、近代においては国家制度とむすびついて発達した人間支配の一形態としてみなすミシェル・フーコーに触発されつつ、この視点を植民地マラヤにおける医療システムによる女性の身体の支配の問題として論じたレノア・マンダーソンの議論を、ポスト植民地的な状況において展開したものである。本報告は、インタビューの回答を実証主義的な視点からではなく、フーコーのいう言説としてみなして分析を行なった。医師たちがインタビューにおいて強調したのは、人間の身体を合法的に傷つけることができる知識と技術をもっているのが医師であることであった。そこから、「FGM」を根絶しようとする医学も、「FGM」を推進する医学も双方ともに女性の身体を医学的な知の対象としていることにおいて共通していることがわかった。また、フーコーのいう近代医学の前提としての「健康な人間」には具体的な内実がなく、きわめて技術的な概念であることが明らかとなった。本報告を発展させた学術論文を現在執筆中であり、国際的な査読誌に投稿する予定である。

本研究全体の研究目的にたちもどろう。マレーシアにおける主体形成とセクシュアリティを「FGM」実践をとおしてみるとなにいえるのか。当初、研究代表者は「FGM」が国民主体の形成に大きく関わっているのではないかと仮定していた。しかしながら、マレーシアの農村では、「FGM」をめぐる言説は、グローバルな言説と接合しておらず、日々の生活に埋め込まれた無意識の実践であることがわかった。これに対して「FGM」の医療化の進展は、無意識的な実践を国家医療やグローバル社会とつなげていくものであるといえる。「FGM」の医療化は、無意識的な実践を意識の上におしやすものであるといえよう。これが今後において国民国家やイスラムなどと接合することは想像に難くない。

本研究の学術的な意義は大きく三つある。第一にマレーシアの「FGM」研究の蓄積に貢献したことである。最初にも述べたようにマレーシアにおける「FGM」についての学術的研究は、限られていた。研究代表者は基課題の成果として、英語による査読論文 (Abdul Rashid and Yufu Iguchi, “Female Genital Cutting in Malaysia: A Mixed-Methods Study” *BMJ Open*, Vol. 9, Issue 4, April 2019. 1-10. <http://dx.doi.org/10.1136/bmjopen-2018-025078>)、日本語による査読論文2篇 (井口由布、アブドゥル・ラシド「女性器切除」と言説の政治——近代医学的まなざしの自明性を問い直す——」『年報カルチュラル・スタディーズ』7巻、2019年、27～45ページ。井口由布、アブドゥル・ラシド「セクシュアリティと女性の身体からみるマレーシアにおける「女性器切除」」『東南アジア研究』57巻2号、2020年1月、166～189ページ)をすでに出版した。上記の医療化に関する論文を加えて、マレーシアの「FGM」に関する合計4本の査読論文を出版することができた。これ以外に二つの国際学会で報告を行い、さまざまな学問分野の研究会において共同報告を行なった。これらによってマレーシア

における「FGM」研究を少しでも推進させることができたのではないかと考える。

第二は、マレーシアの「FGM」研究を進展させることで、アフリカ中心に展開してきた「FGM」研究全体を相対化したことである。この点に関してはまだ端緒についたばかりであるが、少なくとも日本国内では、アフリカにおける「女性器切除」の研究者たちと共同してパネル報告をしかけている。

第三は、社会科学と医学の双方の知を融合した研究を行ない、研究成果を発表したことである。上記のように、ラシド氏と共同で4篇の共著論文を出版し、2019年度には国際学会でパネル報告、2018年度は大阪府立大学と日本マレーシア学会で、2019年度は滋賀医科大学と京都医療センターにおけるワークショップで口頭報告を行なった。このネットワークは2020年度採択の基盤B(ポスト植民地における女性の身体—東南アジアとアフリカの「女性器切除」)につながった。

社会的な意義は二つある。一つめは、国際的で学際的な研究者ネットワークを構築したことである。上述したことと重なるが、マレーシアの共同研究者である公衆衛生学のラシド氏、アフリカの「FGM」研究を行っている日本人研究者のグループ、日本における予防医学や看護学の研究者、日本やマレーシアの医師、ジェンダー研究、人類学、政治学、地域研究の研究者らとパネル報告やワークショップでの口頭報告を行うことができた。二つめは、マレーシアや日本の医師や看護師などの医療者と交流をし、「FGM」問題の重要性を喚起し、必要な情報の提供を行なったことである。すでに言及した滋賀医科大学と京都医療センターでの医師や看護師、医学部学生へのワークショップの開催がこれにあたる。また、マレーシア側では、この共同研究がきっかけとなり、イギリス在住のマレーシア人医師のグループが「FGM」問題に関する教育啓蒙活動を開始することとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Rashid Abdul, Iguchi Yufu	4. 巻 9
2. 論文標題 Female genital cutting in Malaysia: a mixed-methods study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e025078 ~ e025078
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-025078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 井口 由布、アブドゥル・ラシド	4. 巻 7
2. 論文標題 「女性器切除」と言説の政治	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報カルチュラル・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 27 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32237/arcs.7.0_27	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 井口 由布、ラシド アブドゥル	4. 巻 57
2. 論文標題 セクシュアリティと女性の身体からみるマレーシアにおける「女性器切除」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 166 ~ 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.57.2_166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Rashid Abdul, Iguchi Yufu, Afiqah Siti Nur	4. 巻 17
2. 論文標題 Medicalization of female genital cutting in Malaysia: A mixed methods study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS Medicine	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pmed.1003303	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 身体のパリティクスと「女性器切除」－マレーシアの事例から考える－
3. 学会等名 東南アジア学会 研究集会 九州地区特別例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Cultural Meanings of the Female Body in Malaysia
3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Anatomical Gaze, Lack of Integrity, Bodily Inscription: Representations on “Female Genital Mutilation” in Malaysia
3. 学会等名 AAS in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 The Practices of “Female Genital Mutilation” in Southeast Asia: Relativizing the Africa- Centric Discourses
3. 学会等名 16th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 女性の身体という問題から考えるマレーシアにおける「女性器切除」問題
3. 学会等名 大阪府立大学 女性学研究センター 国際ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井口由布
2. 発表標題 マレーシアにおける「女性器切除」
3. 学会等名 日本マレーシア学会関東地区研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 Female Body and Sexuality in Postcolonial Malaysia: People's Views Toward "Female Genital Mutilation" in Malaysia
3. 学会等名 15th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yufu Iguchi
2. 発表標題 The Medicalization of Female Genital Cutting in Malaysia: Its Meaning toward the Medical Discourse on the Female Body
3. 学会等名 18th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 井口 由布	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 368
3. 書名 マレーシアにおける国民的「主体」形成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ラシド アブドゥル (Rashid Abdul)	RCSI & UCDマレーシアキャンパス・Department of Public Health・Professor	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
マレーシア	RCSI & UCD Malaysia Campus		